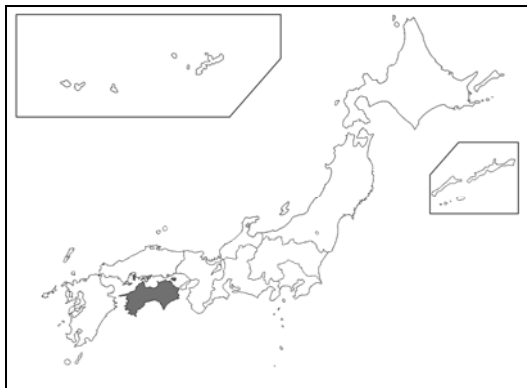


(9) 四国



四国地域では、景気は緩やかな回復基調が続いているが、一部に弱さがみられる。

- ・ 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。
- ・ 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。
- ・ 雇用情勢は着実に改善している。

(注) 下線を付した箇所は、前回からの変更のあった箇所を表す(は上方に変更、 は下方に変更)

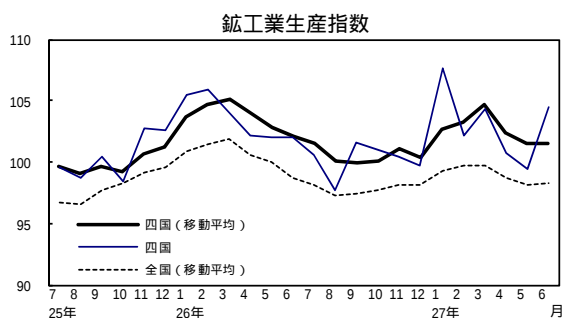
前回調査からの主要変更点

	前回 (平成 27 年 5 月)	今回 (平成 27 年 8 月)	
鉱工業生産	持ち直しの動き	<u>おおむね横ばい</u>	↓
住宅建設	減少	増加	↑

1. 生産及び企業動向

(1) 鉱工業生産はおおむね横ばいとなっている。

4～6月期には、化学は、医薬品が生産計画の都合により減少したこと等から減少した。電気機械は、電子部品等でスマートフォン向けの需要が減少したことにより減少した。食料品は、生産計画上の都合等で増加した。はん用・生産用機械は、化学機械・貯蔵槽等が納期のタイミングにより減少した。非鉄金属は、電気銅等で定期修理後の反動で増加した。



域内主要業種の動向(季節調整値、前期(月)比)(%)

	付加価値 ウェイト	生産				
		1～3 月期	4～6 月期	4月	5月	6月
化学	22.9	9.5	▲ 1.3	0.9	▲ 5.0	9.1
電気機械	15.8	8.3	▲ 9.2	▲ 8.4	▲ 3.6	2.0
食料品	10.5	0.3	0.5	▲ 2.0	4.2	7.1
はん用・生産用機械	10.0	7.6	▲ 6.7	▲ 10.4	2.2	15.5
非鉄金属	8.0	▲ 2.9	2.5	▲ 1.2	8.4	▲ 1.1
鉱工業	100.0	4.3	▲ 3.0	▲ 3.5	▲ 1.2	5.0

(備考) 1. 地域における付加価値ウェイトの高い5業種。

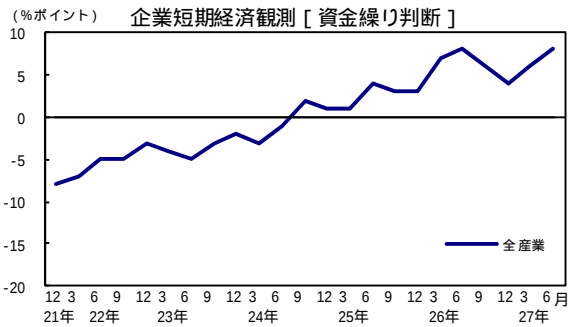
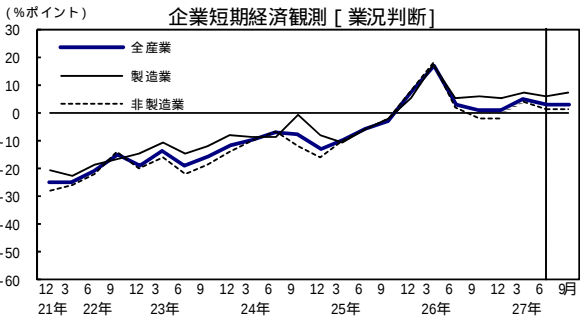
2. 4～6月期、6月は速報値。

(備考) 1. 22年=100、季節調整値。四国の最新月は速報値。

2. 全国及び四国の太線は後方3か月移動平均。

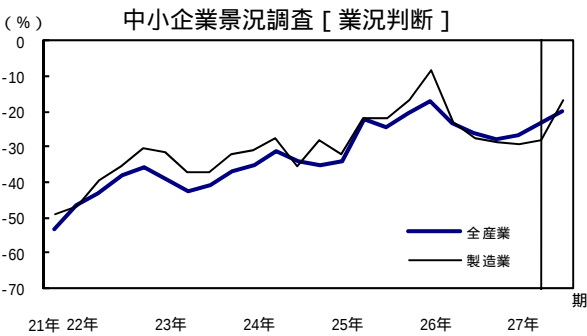
(2) 企業動向の業況判断は「良い」超幅が縮小し、資金繰り判断は「楽である」超幅が拡大している。

企業短期経済観測調査及び中小企業景況調査



(備考)「良い」-「悪い」回答者数構成比。27年9月は予測。
26年12月は新・旧基準を併記。

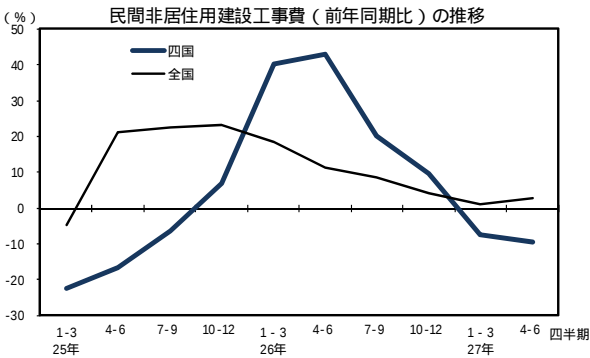
(備考)「楽である」-「苦しい」回答者数構成比。
26年12月は新・旧基準を併記。



(備考)「好転」-「悪化」回答者数構成比。27年 期は見通し。

景気ウォッチャー調査(7月)[企業動向関連(現状)]
「海外は順調であるが、地域ごとに需要のばらつきがあるため、注意が必要な状況が続いている(一般機械器具製造業)」などの回答がみられた。

(3) 設備投資の民間非居住用建設工事は減少している。



企業短期経済観測調査 [設備投資 (6月調査)]

	(前年度比、%)	
	26年度実績	27年度見通
全産業	26.8 (11.3)	0.1 (17.2)
製造業	63.0 (14.9)	▲3.5 (22.3)
非製造業	▲6.1 (5.9)	5.9 (10.5)

(備考)()は前回(3月)調査比修正率。

2. 需要の動向

(1) 個人消費は持ち直しの動きが続いているものの、足踏みがみられる。

地域別消費総合指数 (RDEI (消費))

4月は前月比1.1%減、5月は同0.8%減、6月は同0.6%減となった。

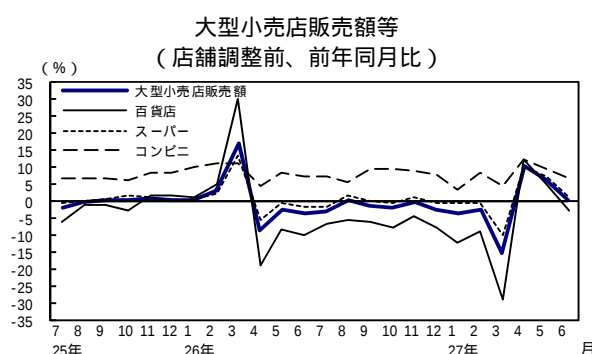
大型小売店販売額

百貨店は、4月は、衣料品は呉服や制服が好調であったことに加え、高級ブランド品が好調であったことなどから前年を上回った。5月は、高級ブランド品が好調であったことに加え、飲食料品は催事が好調であったことなどから前年を上回った。6月は、化粧品や、時計など高額商品が好調であったものの、前年に比べ日曜日が1日少なく、夏物セールの時期を前年より遅らせたことから、衣料品が低調となり前年を下回った。スーパーは、消費税率引上げに伴う減少への反動増がみられた飲食料品が好調であったことなどから前年を上回った。

景気ウォッチャー調査 (7月) [家計動向関連 (現状)]

四国地域の家計動向関連DIは、52.2となり前月2.6ポイント上昇した。

「新車投入を受け、景気の動きは良くなっていると感じる。ただ、8月の動きには少し疑問があるものの、9月以降は現状以上のペースで良くなるだろう (乗用車販売店)」など、「良くなっている」とする回答が増加した。

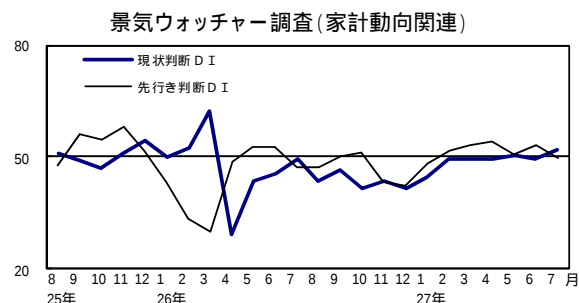
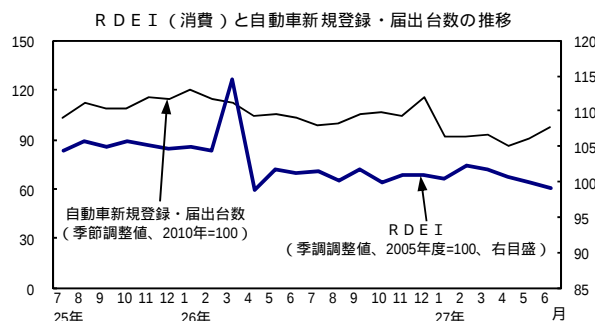


	27年4-6月	27年4月	5月	6月
RDEI (消費*1)	▲1.5	▲1.1	▲0.8	▲0.6
大型小売店(*2)	5.7	10.5	6.7	0.3
百貨店(*2)	4.6	12.5	5.1	▲2.6
スーパー(*2)	5.9	9.9	7.1	1.1
コンビニ(*2)	9.5	12.2	9.3	7.0
乗用車(*3)	▲12.4	▲17.3	▲15.0	▲6.2
(季節調整値)(*3)	▲1.3	▲7.2	4.9	7.4

(備考) 1. 季節調整済前期(月)比 (%)

2. 店舗調整前、前年同期(月)比 (%)

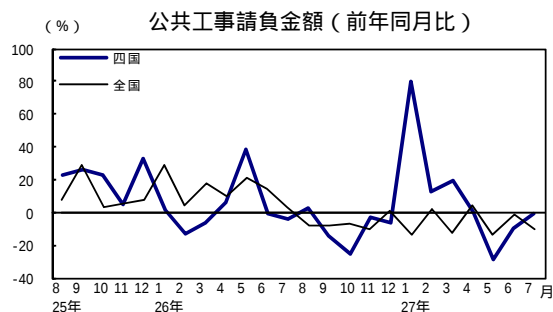
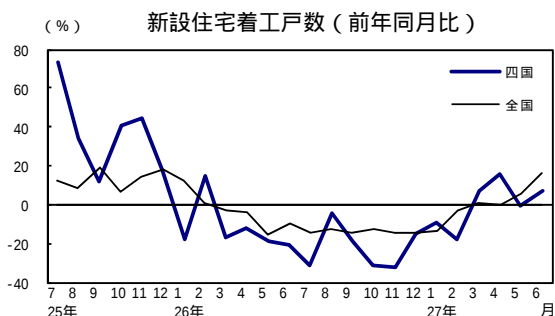
3. 乗用車は、新規登録・届出台数(上段は前年同期(月)比 (%))



(2) 住宅建設は増加している。

賃家、分譲が前年を上回ったことから、全体では増加している。

(3) 公共投資は27年度累計でみると前年度を下回っている。

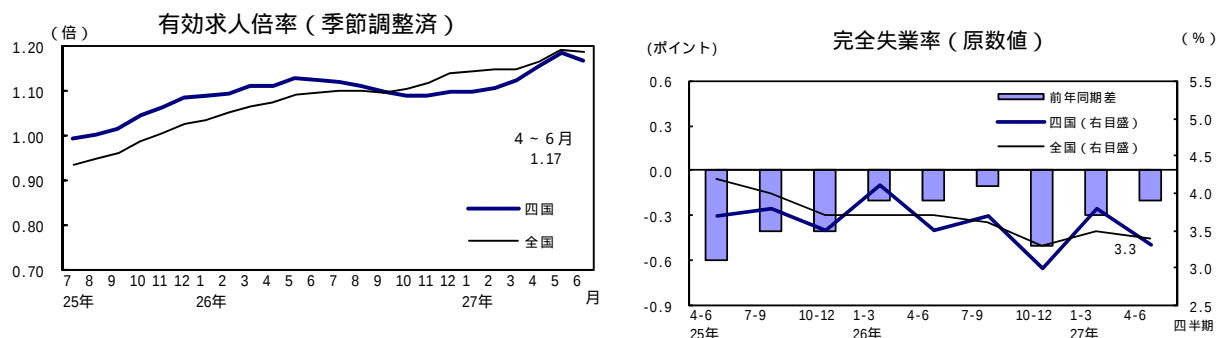


3. 雇用情勢等

(1) 雇用情勢は着実に改善している。

有効求人倍率及び完全失業率

有効求人倍率は上昇している。完全失業率は前年同期を下回っている。



景気ウォッチャー調査（7月）[雇用関連（現状）]

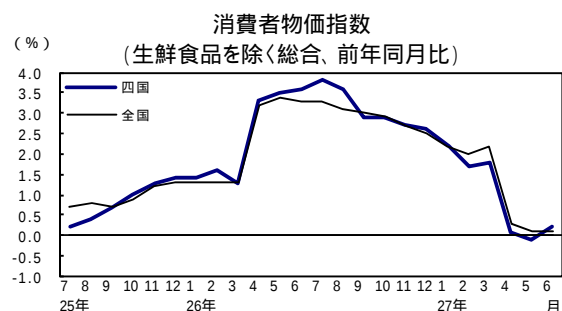
「就職協定の解禁前であるが、新卒の採用者数は前年並みと回答する企業が多い（民間職業紹介機関）」などの回答がみられた。

(2) 件数は大幅に減少、負債総額は減少している。

(3) 消費者物価指数は、前年比の上昇幅が縮小している。

企業倒産

	(件、億円、%)				
	26年7-9月	10-12月	27年1-3月	4-6月	27年7月
倒産件数	48	44	57	40	14
(前年比)	9.1	25.7	16.3	▲31.0	▲22.2
負債総額	159	59	141	60	38
(前年比)	128.5	▲38.9	16.6	▲63.0	39.3



○ 景気ウォッチャー調査（7月）[合計（特徴的な判断理由）]

<現状>

- 外国人の訪問客数が今年6月で既に1千万人近くになっており、日本のいい物を買って帰る人が多いので、受注増につながっている（パルプ・紙・紙加工品製造業）。

<先行き>

- プレミアム付商品券による消費喚起効果は間違いなく表れるものと期待している。ただし、商品券種は1000円券がほとんどでお釣りが出ないことから、少額の買物には向いておらず、業種によっては苦戦を強いられる（商店街）。

